

お互いの立場を明確にしながら話し合うことで考えを広げることができる授業

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 吉野 高史

1. 単元名 情報をもとに話し合い、自分の考えを広げよう
2. 学習材 「ミニディベート—AI との暮らし」(教育出版 ひろがる言葉 5年国語上)
3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第5学年及び第6学年〕の「A 話すこと・聞くこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

知識及び技能

- (2) ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

A 話すこと・聞くこと

内容 オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。

言語活動例 ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。

本単元は、テーマに関する情報を比較・分類して、考え、話し合う単元である。話の意図が明確になるように、収集したデータを活用して根拠をもって話をしたり、視覚資料を提示してわかりやすく伝えたりできることや、お互いの立場や意図を明確にしながら話し合い、考えを広げたりまとめたりできる単元である。

(2) 単元の目標

【知識及び技能】

- 「ミニディベート」を行うために必要な情報と情報の関係について理解することができる。(1 (2) ア) …㊦

【思考力、判断力、表現力等】

- お互いの立場や意図を明確にしながら調べた情報や意見を話し合い、考えを広げることができる。

(2A (1) オ) …㊧

【学びに向かう力、人間性等】

- ミニディベートを行うにあたり、進捗状況を振り返りながら学習を進めようとする。…㊨

(3) 指導観

〔見いだす〕

□本単元(本時等)の目標(めあて・ねらい)を児童に明示している。

㊦単元の目標を知り、学習の見通しをもつことで主体的に学習する態度引き出す。

本単元の第1次では、ミニディベートの行い方を確認し、子どもたちに学習の見通しをもたせる。モデルとして、ミニディベートを行っているモデル動画を見せる。そしてモデル動画と文字起こしした文章を分析していき、ミニ

ディベートの流れや、これから学習していくために必要なことを考えさせ、計画を立てていく。学習計画表は掲示用と個人用を用意しておき、すぐに確認できるようにする。個人の計画表には振り返りを書く欄を設け、毎時間学習の振り返りを行いながら学習を進めていく。モデル動画を見せることで、「自分だったらこう言う。」といった考えをもたせ、ミニディベートへの意欲を高めていきたい。そして、実際に教科書にある「AI」をテーマにし、1回目のミニディベート行う。

〔自分で取り組む〕

□児童生徒が自ら情報を収集し調べることができるように、環境等を用意する。

②収集した情報から、事実と意見を区別してミニディベートの原稿を作成する。

AI についてミニディベートを行った後、自分たちで話し合いたいテーマを決めてミニディベートを行う。テーマについては AI と同じように情報をもとに理論的に話ができるものとする。また、メリットとデメリット両面から話し合いができるものか、対比することのできる2つのものとし、前半と後半2つのテーマを何にするか話し合い、決めていく。情報収集はタブレット型パソコンからインターネットで行っていく。信頼できるサイトを教師側で用意し、その中の情報をもとに自分の意見を構成できるように支援していく。また、ミニディベート中の資料提示方法は、タブレット型パソコンの画面を見せながら提示する方法や、紙に印刷した図表を提示する方法などから、自分たちで選ばせていく。自分で情報の取捨選択ができない子どもに対しては、一緒に情報を読み取っていき、その情報についてどう思うか考えさせ、自分の意見を作らせていきたい。原稿はワークシートを使って書かせる。はじめに話の主題を決め、次にそれに対しての情報や自分の意見を書いていくようにする。モデルをもとに、「まず、次に、だから」「3つあります。1つ目は・・・。」といった型から作成させていく。質問や反論についてある程度用意しておくために、相手の立場の情報についても調べ、話し合いが深まるようにしていきたい。

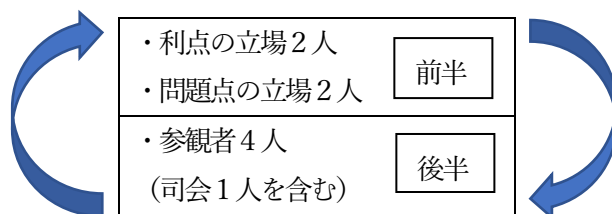
〔広げ深める〕

□児童が自分の考えを伝える場面を設定する。

③ミニディベートを行う。

原稿が完成したら、実際にミニディベートを行う。ミニディベートの実施方法は、前半と後半に分け、図のように4人ずつ行っていく。テーマは、子どもたちが話し合って決めた2つのテーマでそれぞれ行い、前半が終わったら一度全体で振り返りを行う。

グループによって終了時間が異なることが考えられるが1回のミニディベートにつき、10分間時間を取って行う。早く終わってしまったグループは、自由に感想を述べ合う時間にする。質問や反論をする時間は、事前に用意しておいた質問や、相手の話を聞いて考えた質問をもとにミニ



ディベートを進めていく。その際、第2時で指導した「ミニディベートの約束」を再度確認してから始めるようにする。参観者の子どもは、ワークシートの視点をもとにそれぞれの良かったところや改善点をメモしながら話を聞いていき、最後に感想を言う。ミニディベートのグループは子どもの実態を見て教員が構成する。

〔まとめあげる〕

□児童が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定する。

④国語日記を書き、学習について振り返る。

国語日記(わかったことや学習の中で工夫した点)を毎時間学習計画表に書かせるようにする。そうすることで、学習の進捗状況を自分で把握し、何をやらなければならないか整理することができる。単元の最後には、この学習でできるようになったことや、ミニディベートをしてみたの感想を書くことで自分を客観的に振り返り、メタ認知能力を育てていく。

4. 全体指導計画（7時間扱い）

次	時	主な学習活動	○教師の支援 ☆評価（方法）
第一次	1	ミニディベートのやり方について知り学習計画を考えることができる。 ・ディベートと話し合いの違いについて知る。 ミニディベートのポイント ・相手に伝わりやすい構成を考える。 ・意見の根拠となる資料を示す。 ・意見と根拠がつながっているか考える。	○モデルを提示し、本単元のゴールを伝える。 ○教師モデルを分析し、どのような流れでミニディベートを行うのか確認し、学習計画を考えさせる。 ○ミニディベートのポイントを確認する。 ○ ☆単元のゴールと見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 (㊦発言・ノート)
	2 3	教科書のテーマ「AI」で利点と問題点に分かれミニディベートを行う。 ・「ミニディベートの約束」について知る。 ミニディベートの約束 ・相手の話は最後まで聞く。 ・感情で話をするのではなく、情報に基づいて話をする。 ・意見をつぶし合うのではなく、お互いに成長し合うことを意識する。 ・自分の意見と比べながら話を聞く。 ・AIについて自分の立場の情報を調べる。 ・資料をもとに自分の意見を構成したり、資料の準備をしたりする。 ・ミニディベートを行い、よかった所や改善点について考える。	○情報を整理したり、文章の構成をしたりするのが難しい場合は、ペアの友達と相談しながら進められるように支援する。 ○ミニディベート中の資料の提示方法はタブレット型パソコンの画面や紙に印刷したものなど、自分のやりやすい方法を選べるようにする。 ○モデル分析の際のモデルを提示し、型を使いながらわかりやすい構成で文章が書けるように支援する。 ☆「ミニディベート」を行うために必要な情報と情報の関係について理解することができる。 (㊦発言・ノート) ☆お互いの立場や意図を明確にしながら調べた情報や意見を話し合い、考えを広げることができる。 (㊦発言・ノート)
第二次	4 5 6 本時	決定したテーマをもとに、ミニディベートを行う。 ・ミニディベートのテーマを考える。 ・利点や問題点を調べる。 ・資料をもとに自分の意見を構成したり、資料の準備をしたりする。 ・ペアでスピーチの分担をしたり、練習をしたりする。 ・ミニディベートを行い、よかった所や改善点について考える。	○ミニディベートのテーマは、どのようなものが良いか確認する。 ○ミニディベート中の資料の提示方法はタブレット型パソコンの画面や紙に印刷したものなど、自分のやりやすい方法を選べるようにする。 ○情報を整理したり、文章の構成をしたりするのが難しい場合は、ペアの友達と相談しながら進められるように支援する。 ○モデル分析の際のモデルを提示し、型を使いながらわかりやすい構成で文章が書けるように支援する。 ☆「ミニディベート」を行うために必要な情報と情報の関係について理解することができる。 (㊦発言・ノート) ☆お互いの立場や意図を明確にしながら調べた情報や意見を話し合い、考えを広げることができる。 (㊦発言・ノート)
	7	学習のまとめ ・単元を通しての感想を書き友達と共有する。	○この単元を通して、できるようになったことは何か、自分自身を振り返って書かせる。 ○感想を共有することで、自分が言語化できなかった考えに気づいたり、自分とは違う多様な考えがあることに気づいたりできるようにする。 ☆単元全体の学習について振り返ろうとしている。 (㊦ノート・発言)

5. 本時の指導（6／7）

（1）目標 お互いの立場や意図を明確にしながら調べた情報や意見を話し合い、考えを広げることができる。

【思考力、判断力、表現力等】（2A（1）オ）

（2）展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問・子どもの反応	◎教師の支援 ☆評価（方法）
3	1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習問題について確認できるように学習計画を基に学習問題に導く。
	ミニディベートをしよう。	
5	2. ミニディベートの約束を確認する。 ミニディベートの約束 ・相手の話は最後まで聞く。 ・感情で話をするのではなく、情報に基づいて話をする。 ・意見をつぶし合うのではなく、お互いに成長し合うことを意識する。 ・自分の意見と比べながら話を聞く。	○ミニディベートの約束をもう一度確認することで、相手の意見から考えが広げられるように意識させる。 ○ミニディベートの流れをもう一度確認することで、円滑な進行ができるようにする。
10	3. ミニディベートを行う。 ・10分間各グループでミニディベートを行う。質問は相手の話を聞いて疑問に思ったことや、事前に考えておいた質問から行うようにする。 ・資料を見せながら意見を言うことで、説得力をもたせる。 ・相手に伝わるように順序立てて話をする。 ・早く終わってしまったグループはフリートークを行い、テーマへのさらなる質問や、やってみての感想を言う時間にする。	○机間巡視を行い、円滑に進んでいるか確認するとともに、ミニディベートの約束を意識しながら行われているか確認する。 ○話が止まってしまったグループは、原因を把握し助言する。 ○時間内に終わらなかった場合は、時間を延長して行う。それでも終わらなかった場合は、全体で原因を確認し、後半に改善できるようにする。
7	4. 全体で1回目の振り返りを行う。 ・自分の知らないことを知ることができた。 ・準備してあった質問を説明されてしまったから、ペアと相談してその場で答えられるようにする。 ・反論に対してうまく答えられなかったから、もう少しペアで相談したほうが良かった。	○全体でよかったことや難しかったことの共有を行うことで、2回目以降のミニディベートに生かせるようにする。 ○うまくいかなかった点について発言があった場合、改善策が考えられるように問いかける。
10	5. 2回目のミニディベートを行う。	
5	6. 全体で2回目の振り返りを行う。 ・1回目のよりもスムーズにできた。 ・自分が知らない内容を質問されてしまい、答えられなかった。	○新たにうまくいかなかった点があった場合は、改善策を考えられるように全体で共有していく。
5	7. 国語日記を書く。 ◎今日の学習はどうでしたか？ ・友達の考えが自分と違うことが知れてよかった。 ・わかりやすい資料の提示の方法について知ることができました。 ・事実と意見を区別して話すことができた。	○机間指導しながら、自分の考えを書いている子どもを把握したり、称賛したりする。 ○時間があれば、振り返りを共有する。 ☆お互いの立場や意図を明確にしながら調べた情報や意見を話し合い、考えを広げることができたか。（◎発言・ノート）